

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700081		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	松阪市垣鼻町1638-15		
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果市町提出日	平成 23年 11月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2490700081&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 9 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なごやか理念を念頭に置き、家族や地域の方々がいつでも気軽に来て頂けるように「なごやか」な雰囲気施設の作りを目指している。また、施設に引きこもりがちにならないよう外出支援は積極的に行い、外食や、馴染みの場所へドライブに行っている。地域の方も積極的に交流を図り、行事の時には地域の方々に参加を呼び掛け、地域の行事にも参加するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松阪市内に特養やケアハウス、通所介護、居宅支援、訪問介護などを展開している福祉法人が母体である。平成21年にこの地に小規模多機能、認知症デイサービスとグループホームが設立された。道路から「太陽の里」と書かれた大きな看板が目立つ。広い駐車場の奥に3つの事業所の建物があり、グループホームは板塀に囲まれ静かな環境にある。同一法人で他の場所にもう1か所のグループホームがあり、隣の小規模と運営推進会議を合同で開催するなど連携を取りながら運営がされている。家庭菜園で収穫した野菜を食材に活用している。地域の行事に参加をし、また、事業所の行事には地域の方を招くなど地域とのつきあいを大事にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族にも伝わるように理念を常に目に入る見えやすいところに掲示し、毎朝唱和して理念の共有に努めている。	設立時に職員で作った理念が継続されている。毎朝の引継ぎ時には、理念を復唱し理念に沿った介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地区の清掃活動(草抜き・溝掃除)に参加し、回覧板も利用者と一緒に回している。また地域の保育園とも行事の度、交流を行なっている。	自治会に加入し、地区の共同作業等にも参加をしている。事業所での行事(納涼祭や文化祭)に地域の方やボランティアを招いたり、また、地域の文化祭に参加をするなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の認知症サポーター養成講座の講師や介護相談会を開催し、地域の認知症の人の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組み等について報告し、頂いた意見については今後のサービス向上に向けて検討し、取り組みを次の会議で報告している。	法人内の認知症デイサービス、小規模多機能の3事業所合同で運営推進会議が開催されている。会議のメンバーは自治会長はじめ、それぞれの地区の担当民生委員、老人クラブ会長、協力医療機関の看護部長、行政、包括職員と家族代表が参加されている。防災の取り組みなど活発に話し合いがされ、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム部会や運営推進会議において、市の担当職員と現状や今後の取り組みについて意見交換をする機会を持っている。	市でグループホーム部会が開催され参加しているので、担当職員とは顔なじみの関係である。わからないことなどはいつでも相談し、連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で勉強会を実施し、職員全員の身体拘束への理解を深めている。常に意識付けが出来る様に禁止事項を職員が見えやすいところに貼っている。外出されそうな場合は止める事なく一緒に歩いたりしている。	身体拘束廃止委員会を作って、月に1回勉強会をしている。玄関は施錠をせず、人が出入りするとチャイムが鳴るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で高齢者虐待防止関連法について勉強会を実施し、職員全体の虐待への理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で権利擁護や成年後見制度について勉強会を実施し、職員全体の権利擁護や成年後見制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の要望を聞いたり不安を抱かない様にゆっくりと丁寧に説明している。不明な点においては面会時や電話等で家族と連絡をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・相談箱を設置し、頂いた意見については検討し報告している。面会時や電話での家族の意見も報告し、運営に反映している。	運営推進会議に家族の代表が出席し、意見表出の場になっている。面会時に家族の思いを聞くことも多く、来月10月には家族会を開催して意見交換の機会を設ける予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回会議を行い、意見や提案について話し合い、全て管理者が決めるのではなく職員同士相談したうえで決めるようにしている。職員通用口に意見箱を設置し、職員が意見を言えるようにしている。	グループホーム内の会議、さらに法人内の認知症デイサービスと小規模3事業所合同の全体会議がそれぞれ月に1回開かれ、意見や提案がされる。みんなで話し合い、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人から悩みや相談があれば管理者は時間を作り、話を聞くようにしている。困難な場合については早急に上司に報告をして面談の機会を設け、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合わせ外部や法人内にて研修を行い、受講後は研修報告書を作成し、他の職員にも分かるように伝達講習や回覧にて閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の施設行事に参加・交流し、施設の活動に生かしている。グループホーム部会の交流会に参加して他の施設より意見等を頂いてサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションに重点を置き、本人が思いをうち明けられるように、気持ちを受け止め理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のこれまでの苦労や要望、今不安に思っていることを聞き、家族が求めていることを理解するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いをよく聞いたうえで、新たな支援を提供し、場合によっては多機関にサービスを繋げる対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは本人の生活の場であることを職員全体が理解し、その人が出来ることを共にやっていくことによって共に生活をしているという気持ちを持って頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、月に一度の近況報告にて日常生活の様子や気付き、職員の思いを伝えることで情報の共有をし、本人と一緒に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の本人との会話の中や家族との対話の中で出てくる懐かしい場所へ行ったり、行きつけの美容院に行ったりと本人の習慣を大切にしている。	以前住んでいた自宅周辺まで歩いて出かけた、希望を聞いて、車で思い出の場所へ行くなど、思いをくんだ支援をしている。利用者の兄妹の自宅訪問の支援も定期的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で外出支援を行ったり、利用者同士の関係を注意深く見守り、一人ひとりが孤立しないように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた時は今までの情報を提供している。他施設へ行った後の訪問は本人の精神的な状態も把握出来ていないので控えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中からニーズを聞き取り、担当がEシートを作成し、職員会議でどのようにしていくか話し合っている。意思表示が困難な方には家族から情報を得るようにしている。	職員の担当制にしており、担当がセンター方式のEシートを記入するようにしている。利用者の思い、希望を聞いてEシートを作成している。困難な場合は家族とも相談し意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所後に、本人や家族、入所前のサービス担当者より情報を得ようように努め、職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活生活リズムの変化を見逃さないように観察し、本人が出来る事を一つでも多く見つけ出すように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者一人で抱え込まず、本人や家族の意向・要望を聞き、それを元に職員会議で話し合っ、介護計画を作成している。	3か月ごとに計画書の見直しがされ、職員のカンファレンスでモニタリングし、担当者が作成したEシートや日々の介護記録などをもとに計画書が作成されている。同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・個人ケース記録を用いて、利用者の情報やケアの手順の共有を図れるようにして、介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等には柔軟に対応し、外泊、面会等にも臨機応変に対応している。また、リハビリやマッサージを希望される方には、通いや訪問にてサービスを利用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して地域の資源を把握し、夏祭りでの地域のボランティア参加や訪問理容サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく他の医療機関を希望される方には、適切な医療機関を利用して頂き、家族の付き添いが難しい時には、職員が受診に同行している。	受診は基本的には家族にお願いしているが、困難な場合や緊急時には事業所で通院支援をしている。協力医療機関と7名の利用者が医療管理指導を受けて往診もしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが変化がみられた場合は、主治医や隣接する小規模多機能ホームの看護師に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族やケースワーカーと情報を交換し、退院が近い時には、ケースワーカーに連絡をとり、家族を含めて、現在の病状、退院後の対応等、話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアは行っていないが、重度化されている方については早急に家族と話し合い、協力医とも連携をとり支援している。	利用開始時に、『医療行為が伴い、口から食べられなくなるなど重度化した場合、グループホームでの対応は困難である』旨説明をしている。10月に開催予定の家族会では、改めて、事業所の方針、家族の希望、思いを話し合う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の勉強会や最寄の消防署による救命救急講習などを受け、実践に向けた取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て火災を想定した避難訓練を日中と夜間の年2回の予定で行なっている。	火災を想定した訓練が去る7月12日に消防署の指導のもと実施された。また、12月には地震を想定し、耐震車の要請をしている。その時は地域の方の参加もお願いする。	数年前に近くの河川が氾濫したとき、水害に遭った場所とのことで、さらに水害を想定した避難訓練の実施にも期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、一人ひとりに合った言葉かけを行なっている。援助が必要な時も、本人の気持ちを大切にして、さりげないケアを心掛けている。	居室には勝手に入らない、嫌な事は言わないなど、ひとり一人尊厳をもった対応をしている。書類は所定の場所で保管がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない言動や仕草を見逃さず、思いや要望を引き出すように努めている。また、利用者の状態に合わせて、答えやすい問いかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、その日の様子を見ながら、本人の希望を尋ねたり、出来る限り個別性のある支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や帽子等、職員と一緒に買いに行き、好みの物を選んでもらい、おしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜をその日の献立に取り入れる工夫をしている。また買い物、盛り付け、後片付け等を出来る範囲で一緒に行なっている。	家庭菜園で収穫した野菜が食材にあがることもある。献立は職員が作り、法人の管理栄養士にチェックしてもらう。食材の買い出しは最近まで日課であったが、法人の方針で業者配達になり軽減が図られた。食事介助の方もいるが、ゆっくりマイペースでの食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士のチェックを受けたものを使用し、食事・水分量はチェック表に記入している。水分量の少ない方には、本人の好むゼリーやジュース等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声かけを行い、自分に出来ない方には、その方に合った介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、介助の必要な方にも時間を見て誘導する事で、トイレで排泄出来るよう支援している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしてトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の記録を元に排便の状況を把握出来るようにしている。薬だけに頼らず、毎朝の体操の後、牛乳を飲んでもらい自然排便が出来るように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則的に週二回以上入浴して頂いている。入浴を拒否する方に対しては言葉かけや職員が交代する等、一人ひとりに合わせた支援をしている。	毎日お風呂は沸かしている。食材の買い出しがなくなった分、入浴の時間にゆとりができて、ゆっくりした入浴の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない様子がみられる時には、ホットミルクやココアを飲んでもらいながら話をして、安心して休んでもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルし、職員が常時確認出来るようにしている。服薬時は必ず見守り、症状に変化が見られた時は、すぐに看護師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの様子を観察しながら、その人に合った役割や楽しみを見つけて頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や食材の買い物、おやつを食べに行く等、外出支援を積極的に行っている。全員で出かけるばかりではなく、定期的に兄妹の自宅を訪問する等、個別での外出支援も行っている。	同一法人のもう1か所のグループホーム(まごごろ)が近くにあり、その周辺までの散歩は日常的に行われている。買い物や喫茶店(おやつを食べる)などへのお出かけは利用者の楽しみである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は訴えのある方には小額のお金を持って頂いていたが、現在は訴えのある方がいない為、事務所にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には職員が電話をかけて話をしてもらうようにしている。電話が掛かってきた時は、本人に代わって話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には天窗が付いており、天気の良い日は開放して外光を取り込んでいる。中庭には花や植物を植えて、季節を感じられるよう工夫している。	新しい建物で広い空間、掃除も行き届き、清潔で明るい共有スペースである。中庭には木や花が植えられ、家庭菜園の場があり、全体にゆったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間を広く設けてあり、一人ひとりが思い思いに過ごして頂けるように、ソファや椅子の位置を配慮している。また和室では、冬にこたつを置き、足を伸ばしてくつろげる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド以外は極力自宅ですべてのものを持ち込んでもらい、少しでも自宅の雰囲気を感じて頂けるようにしている。	こたつやテレビなど以前使っていたものをそのまま居室に置かれている方もある。全室、洗面台が設備され、窓は掃出し窓になっており広さを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレに表札や目印を付ける事で空間認知出来やすいようにして、自立支援につなげている。		